「誰に頼るのか」イザヤ書 20 章 1-6 節

2023.5.21　礼拝

序論）

私達は今まで、18 章で当時クシュと呼ばれていたエチオピア人についての預言と 19 章でそのクシュに占領されたエジプトについての預言を見てきました。どちらも神様の裁きを経験し、滅ぼされるという預言でしたが、同時に悔い改めるならば【主】を礼拝する神の民に加えられ、祝福に預かるという福音的なメッセージもありました。

今日の箇所はそのエチオピアとエジプトの滅びについて、イスラエルの人たち・・・厳密に言えば南ユダ王国の人たちに目に見える形で伝えている預言となります。

預言のあらまし）

まずは、今日の箇所がどのような預言かを見ていきましょう。

20:1 アッシリアの王サルゴンによって派遣されたタルタンが、アシュドデに来て、アシュドデと戦って、これを攻め取った年のこと。

この預言が語られたのが、アッシリアの王サルゴンによってタルタンというアッシリアのナンバー２となるアッシリアの最高司令官が、ペリシテ人たちの５大都市の一つ、アシュドテという町を攻め取ったときのことです。

もうすでに何回もお話していますけども、アッシリアに対抗するためにイスラエル近辺の国々が連合軍をつくってアッシリアに対抗しようとしていた時期です。一度アッシリアに占領されてしまったにも関わらず、ペリシテ人をはじめ、モアブ人やエドム人たちなどが、アッシリアに対して反乱を起こしてしまったのです。なんでそんなことをしたかというと、彼らの背後にエチオピアによって支配されたエジプト、第２５代エジプト王朝があって、そのエチオピアとエジプトがその時のイスラエル周辺諸国に対して「何かあったら助けてあげるから、アッシリアに抵抗しなさい。」と扇動したのです。だから、彼らはまんまと反乱を起こしてしまったのですが、反乱を起こされたアッシリアは当然、黙っていることはできません。だから、ナンバー２のタルタンを送り出して、圧倒的な勢いでこのペリシテの町アシュドテを攻め取ってしまったのです。

だから、このアシュドテという町は、エジプトが守ってくれるといっていたのに守ってくれなかった町なのです。

みなさん、守ってくれるって約束してくれたのに、その約束が守られなかったらどう思うでしょうか。裏切り者、嘘つき、もう頼らない。そのように思いますよね。
だから、ある意味でこのアシュドデが攻め取られてしまったことによって、エチオピアとエジプトは頼りにならない。ということが明確にされたのです。

過激なしるしがないと悟れない民）

ところが、このときの南ユダ王国は反アッシリア連合には参加していませんでしたが、でもユダ王国内では、エチオピアとエジプトに頼った方がいいのではないか。という声が強くあがっていました。
近隣諸国がまけて攻め取られているという現実があり、エチオピアやエジプトの救援が間に合わなかったという現実があるのに、それでもなおユダの民たちはエチオピアやエジプトに頼ろうとしていたのです。
だから、神様はイザヤに２節のような命令をくだします。

20:2 当時、【主】はアモツの子イザヤによって、すでにこう語っておられた。「行って、あなたの腰の粗布を解き、あなたの足の履き物を脱げ。」彼はそのようにし、裸になり、裸足で歩いていた。

神様は「エチオピアやエジプトに裁きがあることを語れ」とは言われませんでした。言葉ではなくってイザヤの姿を通して、エチオピアやエジプトに頼る愚かさを教えようとされています。
神様は時々、言葉だけではなく、このような目に見えるしるしによって、神様のご計画を伝えようとされるのです。例えば、イザヤの他にもエゼキエルという預言者は、神様に左脇を下にして横たわり、３９０日間、ずっとそのような体制でいなければいけないといわれ、更にその後、右脇をしたにして４０日間、同じようにずっと横たわっていなければいけませんでした。しかも、彼の食事は人の糞を乾かしたものを燃料にして焼いた麦でなければいけませんでした。なんでそんなことを神様がさせたかというと、イスラエルの罪を目に見える形で示すためでした。
また、エレミヤという人は、亜麻布の帯を買ってユーフラテス川のほとりに隠し、時間がたってからそれを取りに行かせて、その腐ってしまった帯をみせることで、当時のイスラエルが腐っているということを目に見える形でみせるようにされました。
みなさん、なぜ神様はことばだけではなく、このようなしるしを見せたのでしょうか。それは当時の人たちの心が霊的に鈍っていたからです。

本当ならば、アッシリアにアシュドデが攻め取られているのを見た時点で、エチオピアやエジプトを頼りにしても意味がない。ということを悟るべきでした。にも関わらず、彼らはエチオピアやエジプトに頼ろうとしていた。だから、神様はそれは意味がないことで、恥ずかしいことなのだ。というのを分からせるために、イザヤを裸にさせ、裸足で歩き回らせたのです。

みなさん、イザヤはどれぐらいこの状態をつづけたのですか？　３節を読むと３年間裸だったと書かれています。

昔、お酒によった芸能人が裸で町中に飛び出した。なんていうニュースを読んだ記憶がありますが、それはその問だけの出来事で、その芸能人が恥をかいたのはほんのひとときです。

でも、イザヤは３年間も裸で人々の軽蔑するような視線、奇異なものをみるような視線を浴びながら、裸と裸足であるき回ったのです。それだけ、イスラエルの民の心が頑なだったからです。

みなさん、私達の心は頑なになると、神のことばだけでは真理を悟れなくなっちゃうのです。これほどの強烈なしるしをみないと、自分がいかに罪深く、危うい状態なのかということがわからなくなってしまうのです。

みなさんは今、神のみ言葉に対して敏感に反応できているでしょうか。日々のみことばのデボーションとしては、今は民数記を読んでいますが、民数記を読むことで自分が悔い改めるべきことをさとり、神様が求めておられる信仰をもつことができているでしょうか。もし御言葉を聞いても何も感じず、敏感に反応できない状態が続いているのならば、当時のイスラエルのように霊的に非常に危うい状態になっているのかもしれません。

みなさん、今、神様のみ言葉に対して自分が敏感になっているのか。それとも過激なしるしを見せていただかないと悟れない状態になっているのか。自分のことを改めて吟味しなおしてみましょう。

世の力は恥ずべき状態になる）

さて、神様はイザヤを裸で歩かせることによって何を悟らせようとしたのでしょうか。３節４節をまず読んでみましょう。

20:3 【主】は言われた。「わたしのしもべイザヤが、エジプトとクシュに対するしるし、また前兆として、三年間裸になり、裸足で歩いたように、

20:4 そのように、アッシリアの王はエジプトの捕虜とクシュの捕囚の民を、若い者も年寄りも裸にして、裸足のまま、尻をあらわにして、エジプトの恥をさらしたまま連れて行く。

　つまり、どうゆうことかというと当時のアッシリア以外の人たちが頼りにしていたエジプトとエチオピアは、アッシリアに負けて捕虜として連れて行かれてしまう。しかも、裸で、裸足のままで恥ずかしい状態で連れて行かれてしまう。と【主】はいわれるのです。そして、これは事実、紀元前６６３年アシュール・バーン・アプリによって実現しています。
　この世でどんなに力があったとしても、「困ったときは必ず守ってあげる」なんていってくれていたとしても、この世の人間の力はあっという間に恥へと変えられてしまうのです。簡単にいえば、この世の力は頼りにならないのです。

　そして、その頼りにならない力に頼った人たちも、結局は恥をかくことになるのです。５節を読みましょう。

20:5 人々は、クシュを頼みとし、エジプトを誇りとしていたゆえに、打ちのめされ、また恥を見る。

　みなさんは神様の前で恥ずかしい選択をしていないでしょうか。一番、頼りになるお方がいるにもかかわらず、その御方に頼らず、この世の力に頼ろうとする恥をおかしていないでしょうか。
　恥をかくだけならまだいいかもしれません。６節をみるとその恥は絶望に変わることが書かれています。

20:6 その日、この海辺の住民は言う。『見よ。アッシリアの王の前から逃れようと、助けを求めて逃げて来たわれわれの拠り所がこの始末だ。われわれは、どうして助かることができるだろうか』と。」

　よりどころが恥ずかしい状態になった。その時、それを頼りにしていた人は、自分の助けがなくなり、救われる道がなくなったということで絶望するのです。
　でも、みなさん、この絶望がもう一度希望に変えられることができます。それはどのようにでしょうか。悔い改めてもっとも頼りにするべき【主】により頼む事によってです。

イザヤの従順に学ぶ）

ここまでが、今日のみ言葉が私達に直接的に教えているメッセージです。

でも、最後にもう一つ、私達はこの箇所から教えられたいことがあります。それはイザヤの従順です。イザヤ書には神様の裁きのことばと、福音のことば、祝福のことばがあります。

前回の１９章の最後にかかれていた、エジプト、アッシリア、ユダが共に【主】を礼拝できるように祝福されるなんていう預言は、まさにエジプトやアッシリアにとっては福音だし、ユダにとってもう喜ばしい知らせだと思います。

私達は良い知らせだったら、喜んで伝えることができます。「イエス様はあなたを愛して、あなたのために十字架にかかってくださった。イエス様を信じれば神の子になれる。」このようなメッセージは比較的話しやすいです。

でも、聖書のメッセージはそれだけじゃない。悔い改めなさいというメッセージもあるし、このままでは神様の裁きがあるよ。というメッセージもあります。そのような悔い改めと裁きのメッセージはなかなか言いづらいけども、でも、語れる人は語れると思います。

では、イザヤのように裸になって、裸足になって、町を練り歩けっていわれたらできるでしょうか。しかも３年間もです。私は正直、神様にいま同じ命令をされたら、それに従える自信はありません。

でも、イザヤは従ったのです。みなさん、イザヤは元々、身分の高い家系の出身ですよ。貴族といってもいいようなそうゆう家系の出身です。しかも、このときは多くの預言をして人々から一目置かれている状態です。みなさん、そうゆう立場の人が裸で町をあるけますか、自分の立場も、誇りも、プライドも捨てて、【主】に命じられたからというだけで、三年間も恥ずかしい姿を晒しつづけることが普通できますか？普通はできませんよ。でも、それでもかれは【主】の命令に従ったのです。

なぜですか？　イスラエルを悔い改めさせるため、愛する同胞を救うため、心が鈍くなった民たちに【主】のみ心を知らせるためです。

みなさん、本当に自分の大切な家族や友人に救われてほしいと思うのならば、自分が恥をかいてでも、しかも、いっときの恥ではなくって、三年にも及ぶ恥をかき続けなければいけない状態であったとしても、【主】のみ心を、体をはって伝えていかなければいけないのです。

私達は、このイザヤの伝道者としての姿に教えられることがあるのではないでしょうか。

まとめ）

まとめます。今日の箇所は私達に「反面教師」と「メッセージ」と「模範」をしめしてくれました。

反面教師なのは、イスラエルの民の心の鈍さです。エジプトやエチオピアが頼りにならない現実があるにも関わらず、神のことばが悟れなくなって、この世の力にすがりついていこうとするイスラエルの姿は、私達が反面教師にするべき姿、彼らと同じ鈍い心をもっていないが吟味するべき姿ではないでしょうか。

また、メッセージは、私達がこの世の力に頼るときに恥をみるのだというメッセージです。本当に頼るべきなのは【主】のみなのだというメッセージを、今日の箇所は私達に語りかけていると思います。

そして、模範にするべきなのは、イザヤの従順です。本当に救われてほしい人がいるならば、自分が恥をかいてでも、【主】のメッセージを、体をはって伝えていく。そのようなチャレンジをイザヤの姿から私達は与えられたと思います。

今日のみことばによって示されたことを、実際に自分たちの歩みに適用していきましょう。